

4-7

主題	ご利用者が待ちわびるレクリエーションを目指して
----	-------------------------

レクリエーションの充実

楽しみの増加

副題	入居されているご利用者に合わせたレクリエーションプログラムの実施。
----	-----------------------------------

研究期間	12ヶ月
------	------

事業所	特別養護老人ホーム 多摩の里むさしの園
-----	---------------------

発表者：伊藤 夏織（いとう かおり）

アドバイザー：

共同研究者：木崎 直美

電 話	042-555-8151	メール	m-kanemoto@enseikai.com
-----	--------------	-----	-------------------------

FAX	042-555-8152	URL	http://www.enseikai.com
-----	--------------	-----	-------------------------

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	平成10年に開設した定員150名の特養です。建物の特徴を活かし、25名単位の6ブロック（居住棟）運営を実施しています。「その人らしさを大切に」の法人理念のもと、ご利用者が快適に過ごせるよう自立支援を行っています。
------------------------------	--

《研究前の状況と課題》

取り組み前のレクリエーションでは、

- ・ご利用者がいつも同じ顔ぶれ。
 - ・レクリエーション内容が職員任せでその場での思いつきによる実施。
 - ・すべてのご利用者が必ずしも実践できる内容となっていない。
 - ・職員の業務優先意識が抜けきれない。
- という状況にあった。

レクリエーションの充実に向けた取り組みの必要性を痛感する中、改善すべき課題を明確にした。

- (1) ご利用者のやりたいこと（ニーズ）が反映されていない。
- (2) レポートリーが少ないため、すべてのご利用者が参加できない。（参加者を限定してしまう。）
- (3) 実施内容にバラつきがある。（好評だった内容も単発で終わってしまい、継続性がない。）

《研究の目標と期待する成果》

これらの課題を組織的に改善を図る場として「余暇活動検討委員会」を立ち上げた。

○委員会目標

「入居されているご利用者が気軽に参加でき、且つ、笑顔で満足していただけるレクリエーションの実施」を目指す。

○期待する成果

- ・「むさしの園」に入居されているご利用者の身体状況を考慮し、より多くの方が参加できる「レクリエーションプログラム」の構築。
- ・レクリエーションについてのアンケートを実施し、ニーズに沿った実施。
- ・実施頻度の増加。
- ・好評なレクリエーションについては定期開催にする等し、生活の中での「楽しみ」の増加。

《具体的な取り組みの内容》

- ・月1回の余暇活動検討委員会(委員数6名)を開催し、「むさしの園」のご利用者が行えるレクリエーションプログラムの作成。更に、通常、ブロック・フロアで実施しているレクリエーションについての情報交換・情報共有・評価の実施。
- ・委員会主催のレクリエーションの開催。(ブロック、フロアに関係なく多くのご利用者が楽しめる時間の提供。)
- ・ご利用者へのレクリエーションについてのアンケートの実施。

こうした、ご利用者の要望を反映し、改善に向けた具体的取り組みは、次のとおりです。

- ・敷地内に園芸が行える花壇・畑の設置。
- ・足浴、ハンドマッサージの定期開催。
- ・ブロック、フロアに関係なく参加者を募りボーリング大会を実施。
- ・近隣公園への散歩の実施。
- ・季節に合わせたレクリエーションの実施
夏：屋外でのヨーヨー釣り
正月：福笑い・百人一首
- ・少人数で手軽にできるのレクリエーションの実施。(お手玉、あやとり等)

《取り組みの結果と評価》

- ・レクリエーションのバリエーションを増やしたことで、より多くのご利用者が参加できるようになった。
- ・レクリエーションの実施頻度の増加(委員会立ち上げ前に比べ約23%増となった。)
- ・レクリエーションプログラムを各ブロックに設置したことでどの職員でも一定レベルの援助が行えるようになった。
- ・足浴、ハンドマッサージを定期開催したことで心身のリラックスの他に手・足指の皮膚疾患の軽減がみられた。
- ・日常の中の少ない時間でもご利用者と共に楽しい時間を過ごし、提供しようとする姿勢が職員にさらに生まれた。

《まとめ》

職員一人ひとりが「ご利用者のためにできること。」「現状に満足せずに新たなサービスや質を向上させること。」をご利用者の立場になって真剣に考え、取り組めたことが、今後の施設全体のサービス向上にも繋がるのではないかと今回の取り組みで強く感じた。

《提案と発信》

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。